2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業

入院中や療養中の学習支援のためのＩＣＴを用いた支援者育成事業報告書

認定ＮＰＯ法人ラ・ファミリエ

La famille
～認定NPO法人ラ・ファミリエ～
地域子どものくらし保健室

この冊子は2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業にて作製いたしました

はじめに

立秋の候、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素よりラ・ファミリエへのご協力とご支援をいただき、ありがとうございます。

この度、令和２年度ドコモ市民団体活動助成事業を受託し、「入院や療養中の学習支援のためのＩＣＴを活用した支援者育成事業」に取り組んでまいりました。

当法人の活動拠点である愛媛県では、令和元年度の病気による長期欠席小中学生は740 名であり、他の都道府県と比して高い状況が続いています。しかし、県内には院内学級のある病院が 4 病院であり、中予地方に 3 病院、南予地方に 1 病院のみ、東予地方にはありません。内訳としては小学生対象が 4 病院、中学生対象は 3 病院のみです。また、復学の為に自宅で療養中の子どもや復学したものの学習についていけず、不登校になり、保護者と共に当団体に相談に来られる子も少なくありません。

本来であれば、公教育による早急な学習機会の保障が必要ですが、公教育の整備を待ち続けるだけでなく、個別の教育的ニーズに応じた支援を県内で行えるよう、学習指導や病気療養児の心理・生理に関する専門性のあるスタッフや教育支援者を増やす必要があります。

新型コロナウイルス感染状況の収束の見通しがたたない現状を踏まえると、感染症流行期の学習支援や余暇支援にも対応できる、ICT を活用した遠隔支援を可能とする人材の育成・物的資源の確保が急務です。よって、ICT を活用して学習支援ができる学習支援ボランティアの研修に力を入れることとなりました。

これらの活動は、多くのボランティアの方々をはじめ、多くの職種の方々に支えられて実現することができています。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

子どもたちの明日がより良いものになるように、スタッフ一同、真摯に取り組んで参る所存ですので、これからも、ご指導・ご鞭撻・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和３年８月吉日
認定 NPO 法人ラ・ファミリエ
理事長　檜垣　高史

目次

はじめに ……………………………………………………………… 1
目次 ……………………………………………………………………… 2

第１章　ラ・ファミリエの学習支援体制について

ラ・ファミリエの学習支援について

第２章　令和２年度学習支援ボランティア研修会について

学習支援ボランティア研修会の概要 ………………………………… 3
各回の研修内容と受講生のことば ……………………………………
ルーブリック評価について ……………………………………………

第３章　学習支援ボランティアの実施

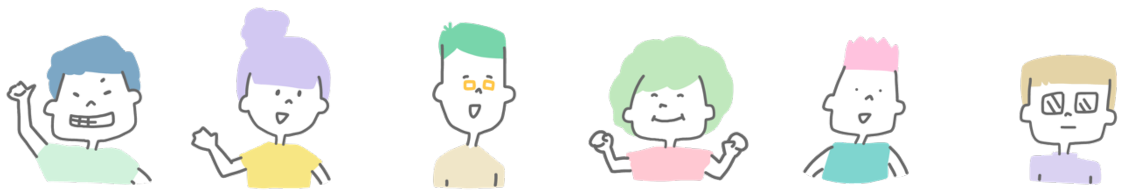
ボランティアによる学習支援について ……………………… 101

第４章　オンライン学習支援の経験談

リーフレット：オンライン学習支援の経験談の作成 ……………… 101

編集後記

おわりに ……………………………………………………………… 114



第１章　ラ・ファミリエの学習支援体制について

1-1 学習支援の実施体制図

- ラ・ファミリエでは愛媛県と松山市から委託を受けている「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の一環として、学習支援を実施しています。

第２章 令和２年度学習支援ボランティア研修会について

2-1 学習支援ボランティア研修会の概要

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Google クラスルームを用いたオンラインでの開催としました。
- 全５回の研修で構成し、各回終了後、受講生にレポート課題を提出してもらうことで修了としました。第３回までの研修が修了し、スタッフとの個人面談ができた受講生は、学習支援ボランティアに参加しました。
- 研修会修了前後でルーブリック評価を実施し、はじめの自己評価や研修終了後の到達目標を考えました。
- 医学部や教育学部、福祉系専攻の大学生や医療系の専門学校生、社会人など合計 28 名が受講しました。

研修会のガイダンス動画が
こちらの URL から見られます。▶

令和２年度　学習支援ボランティア研修会　開催要領

1. 内容
本研修は、主にオンライン講座サービス Google クラスルームを通じて開講します。ただし、第４回、第５回は必要に応じて、ビデオ会議システムでの講義を導入いたします。

2. カリキュラム（予定）（全５回）※状況により、変更させていただく場合がございます。

回	形態	実施・動画配信日時	課題〆切日	内容	講師
1	動画	10/26	11/20	病気療養児の学習支援の基礎	愛媛大学大学院教育学研究科 教授　樫木暢子　先生
				医学的知識の基礎	医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック 大藤佳子　先生
2	動画	11/21	12/20	病児をとりまく支援（小児慢性特定疾病児童等自立支援事業）	認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 理事　自立支援員　西朋子
				ICT 機器を用いた学習支援	認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 自立支援員　越智彩帆
3	動画	1/21	2/20	病児の発達課題を考える 余暇の支援	愛媛大学大学院教育学研究科 教授　樫木暢子　先生
4	オンラインでの公開講座	4/24	5/9	公開講座「ストレス時代のこどもの学び～学ぶことは生きること～」	昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授　さいかち学級担当 副島　賢和　先生
5	オンラインによる開催	6/19	7/20	成果報告会・情報交換会	愛媛大学大学院教育学研究科 教授　樫木暢子　先生

＊期間中に、オンラインでの個人面談を実施する予定です。

▲ R2 年度学習支援ボランティア研修会の開催要項

▲ 学習支援ボランティア研修会のチラシ

2-2 各回の研修内容と受講生のことば

第１回研修会

（講義内容）

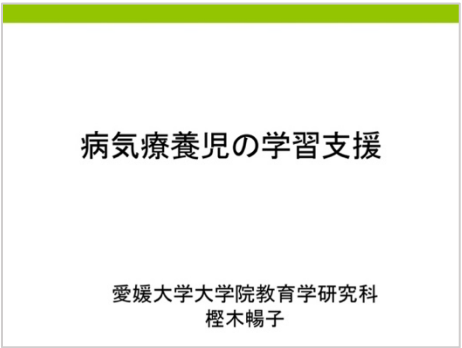
- 「病気療養児の学習支援」愛媛大学大学院教育学研究科　教授　樫木暢子先生
- 「病気の子どもの配慮について」「感染制御の基本」「小児がんについて」
  医療法人ゆうの森たんぽぽクリニック　大藤佳子先生

（講義方法）

- 動画配信によるオンライン講座

（受講生のことば）レポートより一部抜粋

- 「学習支援の活動が与える影響が思ったよりずっと大きいことを学びました」
- 「学習支援の時間が、病気のことを忘れられる時間になるよう、気をつける点やアイスブレイクにおいて大切なことなどをもっと知りたいなと思いました」
- 「ボランティアに興味があるものの、自分ができるか自信がなかったのですが、支援の流れを知ることができ、少し安心しました」
- 「“何がしたい？“という問いかけの大事さを知りました。自分自身が学習支援をする中で”何がしてみたい？“などの会話ができる機会があれば、普段は家族や医療関係者の人に話せないようなことも聞いてあげられるように、関係性を築いていきたいな、と思いました」
- 「自分自身の体調管理や手洗いうがい消毒、マスクなどの感染予防対策など、“自分が病気をもっているかもしれない”または“病気をもらってしまうかもしれない”という意識で行動することが必要だとわかりました」



▲　動画教材の表紙①

▲　動画教材の表紙②

第２回研修会

（講義内容）

- 「病児を取り巻く支援」認定 NPO 法人ラ・ファミリエ　理事・自立支援員　西朋子
- 「学習支援の実際の流れ」「ICT 機器を用いた学習支援」
  認定 NPO 法人ラ・ファミリエ　自立支援員　越智彩帆

（講義方法）

- 動画配信によるオンライン講座

（受講生のことば）レポートより一部抜粋

- 「病気のある子どもたちやその家族が抱える悩みや不安は、さまざまであることがわかった」
- 「病気のある子ども達自身が、自分の病気について説明できるようになるための取組は、周りの理解を得るためにも、将来のためにも、必要だと思いました」
- 「イベントでの子どもたちの感想が印象で、“今は話したくない”、“親に話せないことが話せた”、“自分に気付けた”、“元気な身体に生まれたかった”など、さまざまな思いを抱えて生活していると知った。今後、学習支援をする場合に、このような思いを抱えている可能性があることも覚えておきたいです」
- 「実際の学習支援の方法について、これまでのボランティアの方々が工夫していることを知れて、大変勉強になりました」
- 「コロナ禍でオンライン活動になることが多いが、オンラインでの会話は相手の様子を知ることが難しいなどのデメリットもある。講義で説明されていたオンライン学習支援でのコツを意識して行いたいです」

▲　動画教材の表紙③

▲　動画教材の表紙④

第３回研修会

（講義内容）

- 「病気の子どもの発達課題を考える」「子どもの余暇について」
  愛媛大学大学院教育学研究科 教授 樫木暢子先生

（講義方法）

- 動画配信によるオンライン講座

（受講生のことば）レポートより一部抜粋

- 「学習の遅れを取り戻すことはもちろん目的の１つですが、精神面なども含めて、子どもたちが学習を通して全体的に発達することができるよう、子どもたちが子どもらしく生活していくことができるようにすることが重要な目的であることを知りました」
- 「子どもは一人ひとり違っていて、同じ病気だからといってその子ども達が同じ気持ちを抱えているわけではないため、子どもそれぞれに応じた関わりをしていくことが大切だな、と思いました」
- 「さまざまな工夫が施された文房具があることや、ハイタッチなどのスキンシップを行うことで、達成感を味わえる子どもも多くいること、幼児期では病気を自分への罰だと捉える子どももいる、などということを初めて知りました」

◀ 講義で例に挙げられた文房具の１つ
「魔法の定規」クロスボウジャパン

▲ 動画教材の表紙⑤

第４回研修会

（講義内容）

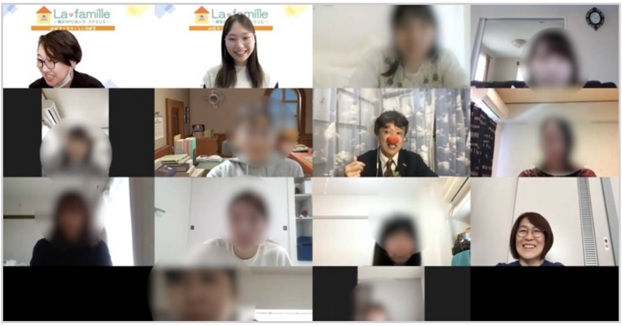
- 公開講座「ストレス時代の子どもの学び　～学ぶことは生きること～」
  昭和大学大学院保健医療学研究科　　副島賢和先生
- 講義 60 分、学習支援ボランティア研修会受講生対象の質疑応答 60 分

（講義方法）

- Zoom を用いた同期型オンライン研修会

（受講生のことば）レポートより一部抜粋

- 「副島先生の経験談がふんだんに盛り込まれており、特にお子さんの発した言葉に、はっとさせられました」
- 「質疑応答の時間では、私たちが普段感じていることや悩みなどを副島先生が答えてくださりました。先生はいつでも子どもたちの立場に立って物事を考えているのだということを感じました」
- 「子どもと初めて会うときは、まず子どもにとって安心・安全な存在だということを伝えることが大切だとわかりました」
- 「何かしらの不安や辛い気持ちを抱えている子どもたちの気持ちを少しでも軽くできる、“あの人に話したい”、“あの人に話したら何となく気持ちが楽になった”と思ってもらえるような存在になりたいな、と思いました」



▲　質疑応答の様子

▲　副島先生講演会チラシ

第５回研修会

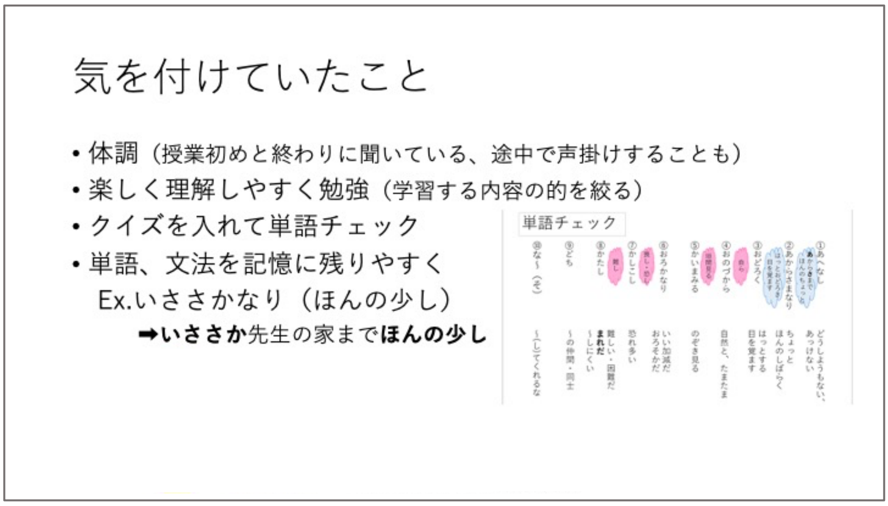
（講義内容）

- 「成果報告会」
  講師：愛媛大学大学院教育学研究科 教授 樫木暢子先生
  ファシリテーター：認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 西朋子・越智彩帆
- 受講生による「学習支援ボランティア研修会を通して学んだこと」についての発表と質疑応答・意見交換

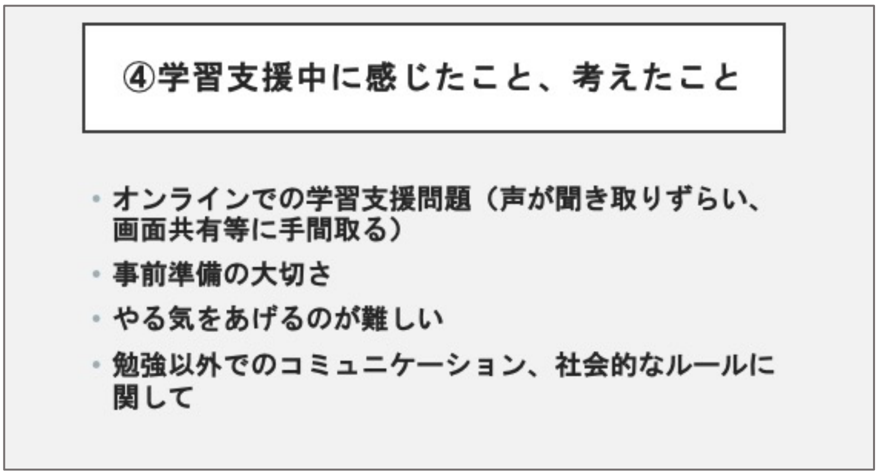
（講義方法）

- Zoom を用いた同期型オンライン研修会

（受講生の成果報告資料）一部抜粋



▲ 受講生の発表資料の一部抜粋①



▲ 受講生の発表資料の一部抜粋②

2-3 ルーブリック評価について

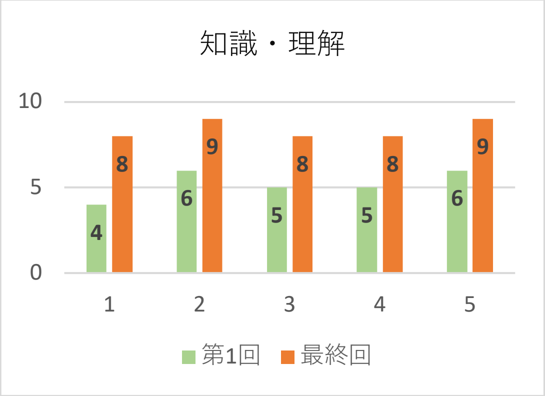
ルーブリック評価について

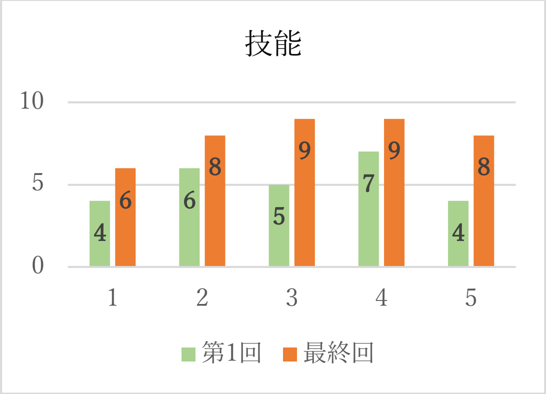
- ルーブリック評価とは、学習の達成度を評価するためのものです。
- 本研修会では、山下ら（2016）[1]が作成した「入院児への余暇・学習支援ルーブリック評価」を使用しました。

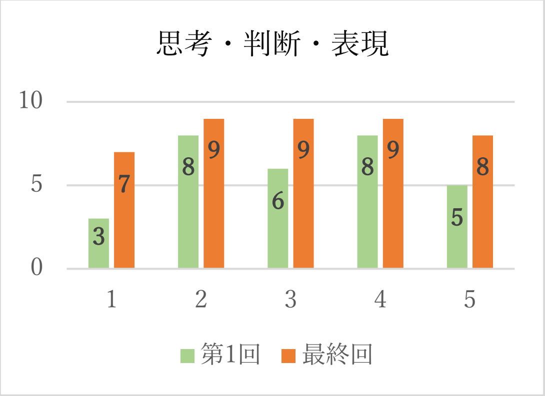
実施方法

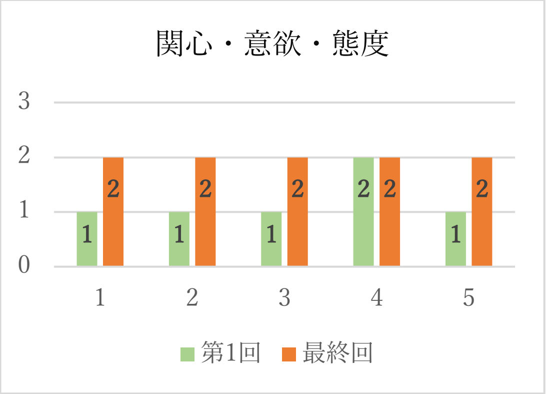
- 研修受講前および受講度にルーブリック評価を実施しました。両方のルーブリック評価が揃っている受講生５名のものを集計しました。「知識・理解」「思考・判断・表現」「技能」は各３項目で、ＡＢＣの３段階評価としました。「関心・意欲・態度」は 10 項目中当てはまるものの項目の数を合計し A＝9〜10 項目、B＝6〜8 項目、C＝0〜5 項目としました。全て、A＝3 点、B＝2 点、C＝1 点に換算しました。

受講生別 各観点における変化





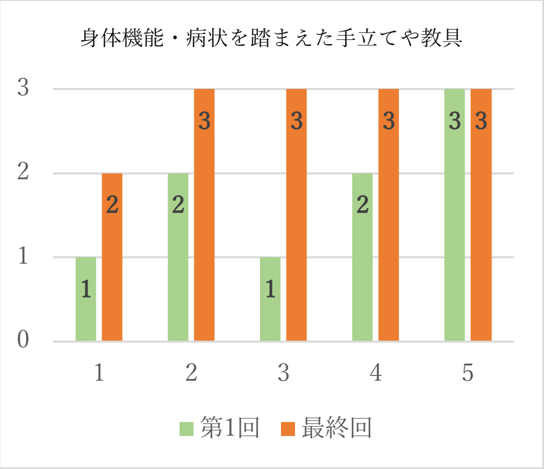


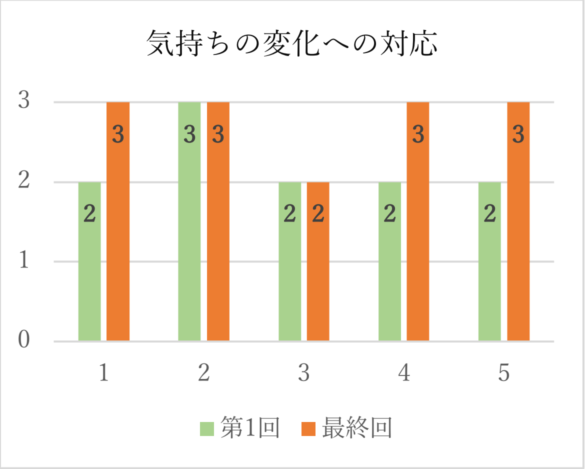


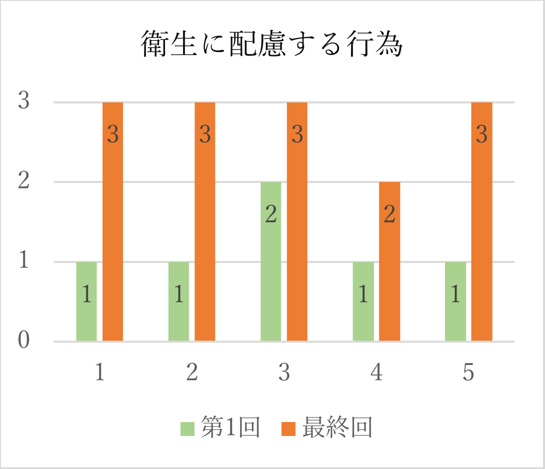
[1] 山下祥代・樫木暢子・太田貴仁・苅田知則・中野広輔，入院児への余暇・学習支援における学生ボランティアへの期待に関する研究，2016,8.30，Jornal of Inclusive Education VOL.1，54-66.

受講生別 細項目における変化

＜知識技能＞

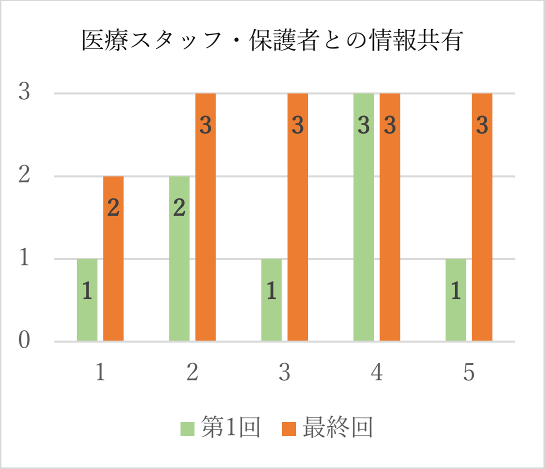


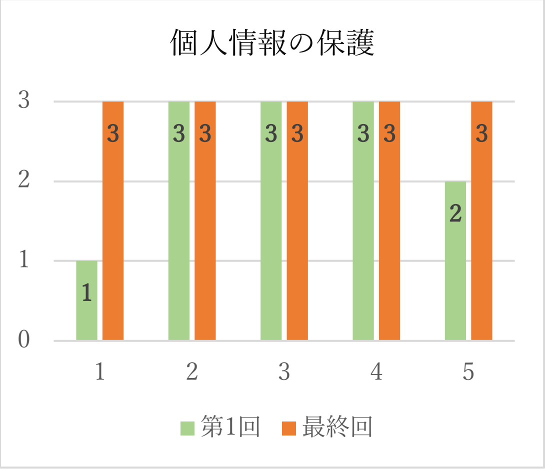


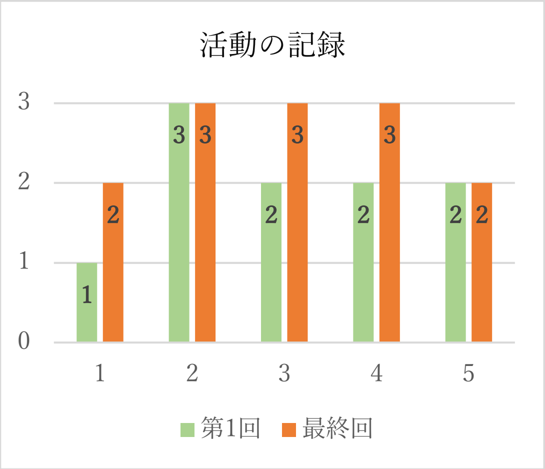


知識技能のどの観点も、満点で自己評価をしている受講生が多く、研修を通して必要な知識等を身に付けることができたといえます。
特に衛生に関する行為については、伸び率が高く、コロナ禍でも十分な配慮をして活動できる人材が育成できました。

＜思考・判断・表現＞

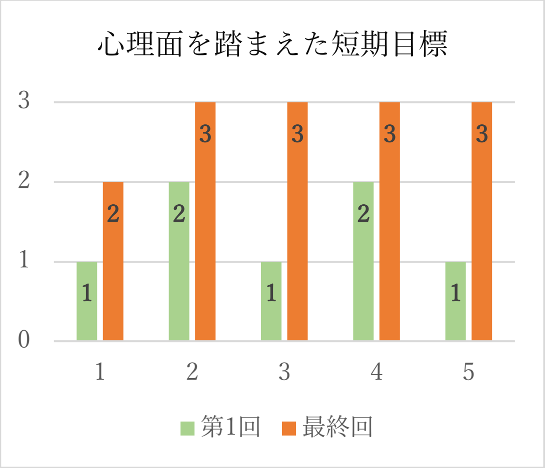


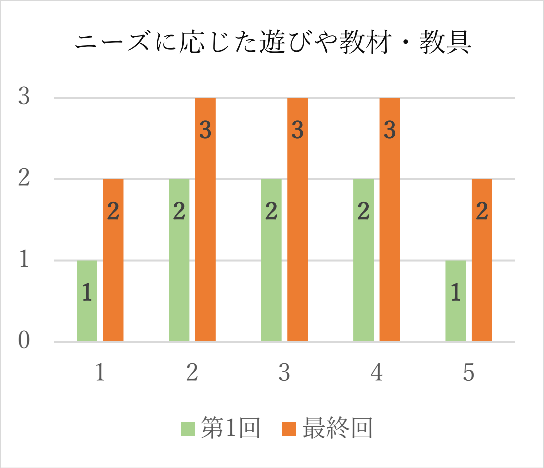


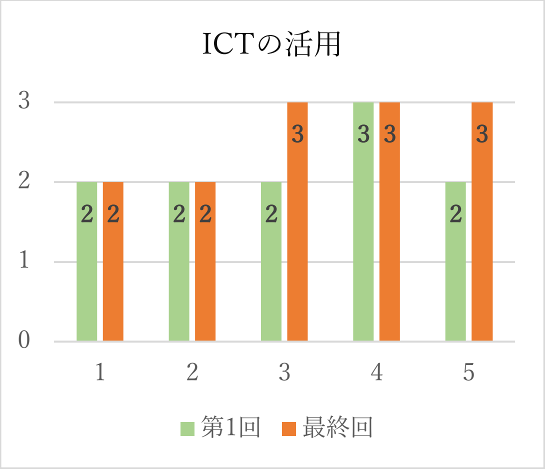


思考・判断・表現のどの観点も、満点で自己評価をしている受講生が多く、研修を通して必要な知識等を身に付けることができたといえます。
子どもをサポートする人たちとの情報共有や毎回の記録の方法など、子どもを支援する上で必要なことが身に付いたことがわかります。

＜技能＞





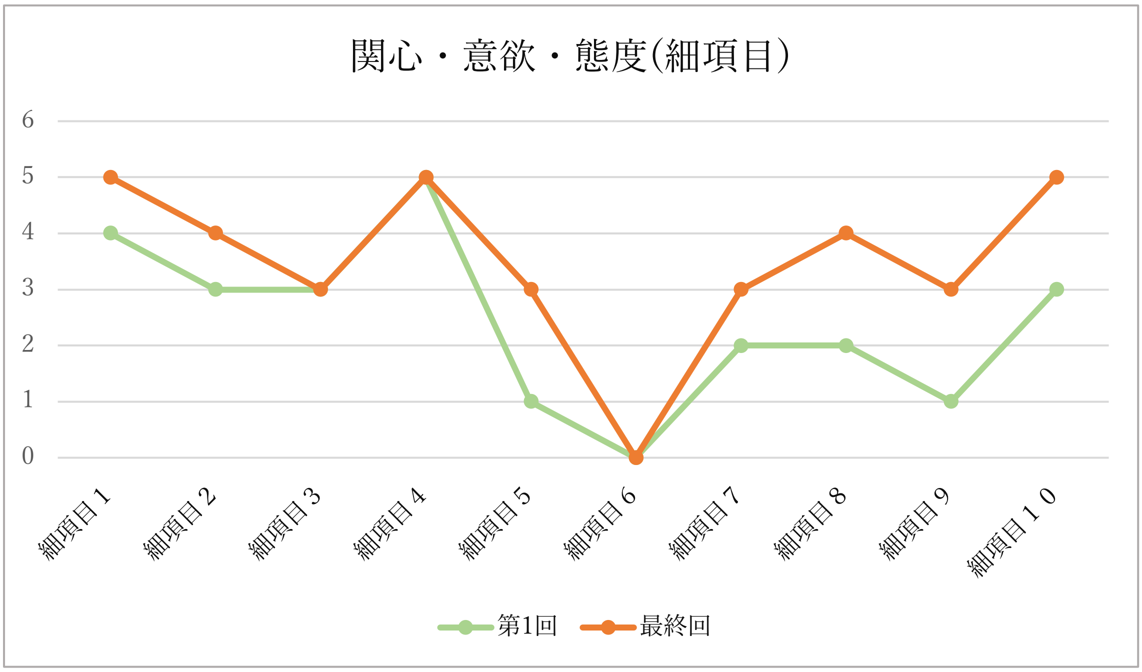


肯定的な自己評価をした受講生が多いですが、ICT の活用において、実際のオンラインでの学習支援を経験した受講生と経験しなかった受講生では、自己評価に違いが見られました。
ICT については、実際の学習支援活動やロールプレイングなど、経験しながらその活用方法を学んでいく必要があると示唆されました。

＜関心・意欲・態度＞

表１　関心・意欲・態度の細項目一覧

細項目 1	言葉や行動の意味を人に聞いて理解
細項目 2	ことばや行動の意味を調べて理解
細項目 3	知識を活動内容と関連付ける
細項目 4	知識を基に関わり方を考えて活動
細項目 5	教育関係者から指導助言を受ける機会に参加
細項目 6	教育関係者に指導助言を依頼
細項目 7	自分なりにまとめて記録
細項目 8	改善点や次回の展開を考えようとする
細項目 9	周囲の人から考え方を取り入れる
細項目 10	ボランティア参加者の考え方を取り入れる



全体的に数値に上昇が見られ、研修会を通して、受講生の関心・意欲・態度が向上したといえます。中でも、指導助言を受ける機会に参加すること、改善点や次回の展開を考えようとすること、周囲の人・ボランティア参加者の考え方を取り入れることは伸び率が高く、より良い方法を学ぼうとする態度が養われたことがわかります。

ただし、教育関係者に指導助言を依頼することができるのは、研修後も０人という結果でした。あまり関係ができていない教育関係者にボランティアが自らお願いして話を伺うことは、ハードルが高いのではないかと考えられます。今後は、ボランティアと教育関係者等が情報交換ができる場を設けることで、お互いの関係づくりの一助としたいと考えています。

第３章　学習支援ボランティアの実施

3-1 ボランティアによる学習支援の実施について

- 第３回までの研修が修了し、スタッフとの個人面談ができた受講生は、学習支援ボランティアに参加しました。

- 2020 年 9 月～2021 年 8 月までの学習支援ボランティア実施状況

小学生が対象の学習支援

✧　１名。週１～3 回オンラインでの学習支援を実施しました。

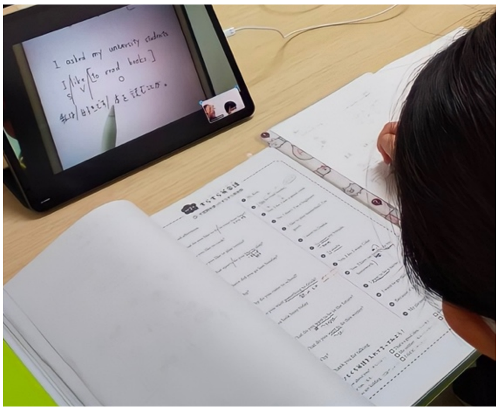
中学生が対象の学習支援

✧　合計２名。週１回対面での学習支援が１名、週１回オンラインでの学習支援が１名でした。

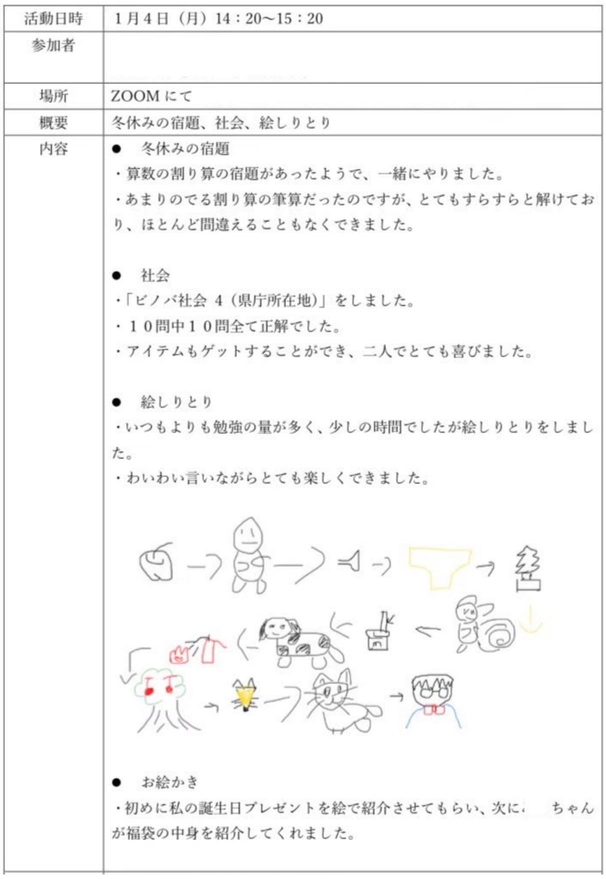
高校生が対象の学習支援

✧　合計２名。週４回対面での学習支援が１名、週１回オンラインでの学習支援が１名でした。

- 学習支援後は、報告書を提出していただき、ラ・ファミリエや保護者等との情報共有をしました。



▲　オンライン学習支援の様子



活動日時	1 月 4 日（月）14：20～15：20
参加者	
場所	ZOOM にて
概要	冬休みの宿題、社会、絵しりとり
内容	●　冬休みの宿題 ・算数の割り算の宿題があったようで、一緒にやりました。 ・あまりのでる割り算の筆算だったのですが、とてもすらすらと解けており、ほとんど間違えることもなくできました。 ●　社会 ・「ピノバ社会 4（県庁所在地）」をしました。 ・１０問中１０問全て正解でした。 ・アイテムもゲットすることができ、二人でとても喜びました。 ●　絵しりとり ・いつもよりも勉強の量が多く、少しの時間でしたが絵しりとりをしました。 ・わいわい言いながらとても楽しくできました。 ●　お絵かき ・初めに私の誕生日プレゼントを絵で紹介させてもらい、次に、　ちゃんが福袋の中身を紹介してくれました。

▲　学習支援報告書の例

3-2 ボランティアによる学習支援の実施について

- ラ・ファミリエにおける学習支援ボランティア開始までの流れを図で示しています。

START

病院からの相談・紹介

本人・保護者等からの相談

今の状況は？

どんな子かな？

ラ・ファミリエ 自立支援員との初回面談

どんな学習支援が必要かな

学習以外に困りそうなことはないかな

自立支援員による学習支援

ボランティアのマッチング

どんな方法だと学習しやすいかな

あの子と合いそうな
ボランティアさんは誰かな

本人・保護者・ボランティア・自立支援員での顔合わせ

はじめまして。これからよろしくね

こうやって一緒に勉強してみよう

ボランティアによる学習支援

支援経過観察

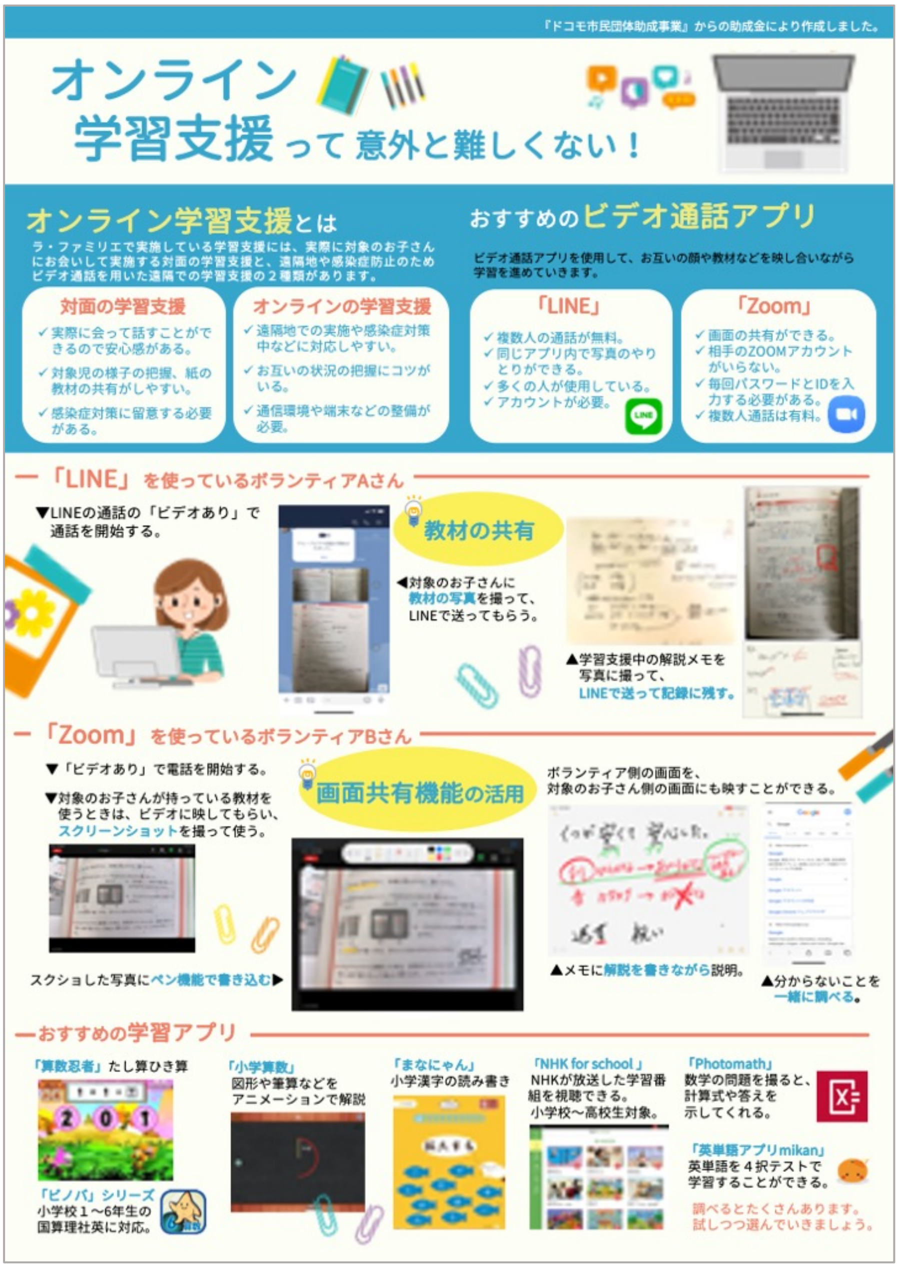
その後の様子はどうかな

La♥famille
～認定NPO法人ラ・ファミリエ～

第４章　オンライン学習支援の経験談

4-1 リーフレット：オンライン学習支援の経験談の作成

- 学習支援ボランティアをする上で、オンラインでの学習支援の方法やコツ・工夫が知りたいという声が多く挙がっていました。
- そこで、ＩＣＴ機器を用いた、オンラインでの学習支援をしているボランティア２名に、「オンラインでの学習支援を実施する上で、気を付けていること・コツ」を聞き、その内容を、リーフレットにまとめました。



◀リーフレット(表)

◀リーフレット(裏)

- このリーフレットを、学習支援ボランティア研修会にて紹介しました。

編集後記

これまでの研修会ではICT機器の活用の力を十分に高めることが課題となっていました。今年度は実際に遠隔学習支援を行った学生を中心に、「こうすればできる」という実感をもって学びを深めていただけたと思います。対面、遠隔に関わらず、ICT機器もその他の教材も活用して、子どもたちの「なるほど！」「わかった」「もっと学びたい」が聞こえる学習支援を目指していきたいです。

愛媛大学大学院教育学研究科　教授、認定NPO法人ラ・ファミリエ　理事

樫木　暢子

　コロナ禍において、ICTを活用しながらどう子どもたちと向き合うか？どうやったら伝わるのだろうか？試行錯誤しながら学習支援を行った１年でした。

　学習だけでなく、様々な話をするということの大切さをボランティアさんたちにどう伝えるか？私たちスタッフも ICT をフル活用しながらボランティアさん・子どもたちに寄り添い支援を行いました。こんな世の中だけど、学習支援を通して、ひとりじゃないよということをしっかり伝えていくことの大切さを今後も努力していきたいと思っています。ドコモ市民活動団体助成をいただき１年間活動できましたことを感謝申し上げます。

認定NPO法人ラ・ファミリエ　理事、地域子どものくらし保健室 ディレクター

西　朋子

　学習支援は、教科学習だけでなく、日常生活における社会的なスキルを身につける機会にもなるのでは、と この１年で特に感じています。学習支援を始める時間を守ること、時間に遅れそう・お休みしたいときは そのことと理由を伝えること… ノートや参考書に向かっている時間だけでなく、その他のふとした瞬間にも学習の機会が散りばめられているな、と思います。経験不足により、人間関係や社会生活で困る病気の子どもたち・大人たちも少なくありません。学習支援の限られた時間の中でも、いろんな経験ができるよう、アンテナを張っておきたいです。

認定NPO法人ラ・ファミリエ　地域子どものくらし保健室　自立支援員

越智彩帆

2020年度ドコモ市民活動団体助成事業
「入院中や療養中の学習支援のためのＩＣＴを用いた支援者育成事業」報告書

発行日　2021年8月31日
発行者　認定NPO法人ラ・ファミリエ（〒790-0026 愛媛県松山市室町74-2）
企画・制作　認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室

問い合わせ先
認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室
〒790-0813 愛媛県松山市萱町4丁目7-2 カネ宮ビル1階
TEL/FAX：089-916-6035　E-mail：lafamille@cc-sodan.jp

この冊子は、NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドの助成事業にて作製いたしました。
多大なご理解、ご協力をありがとうございます。
引き続き、今後もご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

ラ・ファミリエ
地域子どものくらし保健室